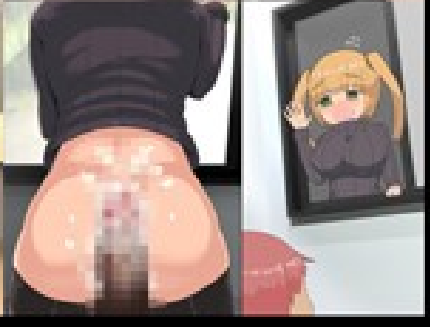


REC

自分が盗撮している事を露出狂の娘にバレてしまい
その日から付き合わされる事に

露出狂の危険な教え子といっしょ



※人が来たのでロッカーに隠れる2人

●REC



●REC



●REC



●REC









「ふう……やっぱ学校で隠れてオナニーするのがいい……」

「なに今の音、こっからしたような
・・・スマホ？隠し撮り？マジ？
うわぁバッチリ映ってんじゃない」

「女子更衣室録画とかマジいい趣味してるなあ
ってかこのスマホ見た事ある
・・・あっ思い出した」



「はいこれ
先生のですよね？」

「うん……」

「たまたま電話が鳴って見つけました
私じゃなかったら大変な事になってましたね」
「……」
「でもまさか盗撮が趣味だったなんて驚きですよ」



「ごめん・・・この事は・・・」
「そんな怯えなくても大丈夫ですよお
私たちのひみつです♪」

「それに私、全然怒ってませんから」
「ほ、ほんと？」
「ホントホント」



「怒ってないので先生のエッチな動画撮らせて下さい」
「え……」

「早くちゃんぽだして下さい♡」
「……」
「はやく♡」



「わぁ結構大きいかも
勃起してないのにこんな何ですか？すごーい」

「あれ？もしかして
見られて緊張してます？
じゃあ足で手伝ってあげますね♡」



「満足しましたあ♡
もちろんなこの事も盗撮の事も誰にも言いません」
「よかった・・・」

「これで先生と私は
エッチな部分を見せあつた
いわゆるお友達ですよね」
「うん？う、うん」
「ねー」

ポロポロ



「じゃあ今日から先生は私のセフレですよね」
「……えっ！」

「嫌ですか？嫌なんですネ悲しい……
悲しくて動画投稿サイトにアップしちゃいそう」
「うっ」

「あはは、冗談ですよお」
どこまでが冗談なんだろう
「これから毎日キモチイイ事しましょうね♪」
……やばい事になっちゃったぞ
その日から教え子との奇妙な関係がはじまった







ト
コ
ユ
...

ト
コ
ユ

「うわあ〜♥すごいすごいーいめっちゃ濃いの出てますよお」
「こんな所で続けたら誰か来るんじゃないや・・・」



「それが良いんじゃないですかあゝ
来そうで来ないような所でエッチするのは最高です♡」
「うーん……」



「まあまあ、そのうちこの良さに気づきますって」
「そうかなあ……」
「それじゃ次はあゝ」



「うへえすっごい出てる・・・
身体の相性良いのかも？」



途中から夢中になってしまった
人目に付きそうな所でやるのが
こんな興奮するなんて・・・

「さすがにまずくないかな・・・」
体育館の横の倉庫
運動をする生徒達の声や音が聞こえてくる

「平気平気♪たぶん来ませんって」

「たぶんって・・・」

「それにほら、さっきまで体育の授業だったんですよ
汗だくの体操着でヤルってなったら
やっぱり場所はこういう所が良いかなって」

それは・・・良いと思うけど









「あれ？鍵がかかっている？」
「いやそんな事はないだろ」



「んーやっぱり開かないぞ」
「・・・ほんとだ
じゃあカギ取ってくるから待っていて」
「おう」

「やばい」
「あはは・・・ほんとに来ちゃいましたね、どうしよ」

「よし開いた」

「うん？何か臭くね？」

「そうか？こんなもんだろ」

「うーん俺の鼻がおかしのかな
まあいいかそういや昨日テレビで……」

「気づいてないみたい」

「……」

ロッカーに逃げ込んだ
ばれてないけど
匂いがこもる上に身体が密着してこれは

「助かったね先生……ちよ、ちよっと!?!」

あわわ
んぎゅ
んぎゅ



「ちよ、なにを・・・んっ♡
これやば・・・やばいつて・・・っ♡♡♡」

ガッ

んっ♡

んっ♡

ガッ

んっ!?

ガッ

んっ♡

んっ♡

ガッ

んっ♡

んっ♡





「……あつた、これだろ？」
「ああそれぞれ、じゃあ行こうぜ」

入り口の扉が閉まる音と
足音が遠ざかっていくのが聞こえた

「……先生」

「ごめん、我慢できなかった」

「んもお……めっちゃびびったんだからね……
でもめっちゃ興奮もしたからまたやろうね♡」

「うん」

ドクドク……

ビュ……





「元気？気合入ってんね」
「今週末に大会あるからね」



「そっかあゝ自信あり？」
「そりゃもう狙うのは優勝だよ」
「おおゝ」



「ところで何してんの？」
「んっ!？」



「だって帰宅部でしょ?なんでこの時間に」
「あっ、あーいやっ!これから帰る所だよ!」

「あと顔赤いけど大丈夫?風邪?」
「そ、そうそう風邪だよ!」



「急に体調悪くなって
さっきまで休んでたんだあゝあはは」
「気を付けなよ」



「じゃあ私練習あるから」
「うん、それじゃあねえ」



「……よくやるね」
「めっちゃ良かった、先生もごっつ代わる？」
「遠慮しておくよ」

「突然すいません」

「いえいえ、こちらこそ迷惑じゃないかと
娘の為に特別に家庭訪問をして下さるなんて」

「あはは・・・」

「助かるよね〜」

「ほんとねー」

「ちよつと先生と二人で進路の相談していい？」

「まだ考えがごちゃごちゃしてて、後でまとめて言うからさ」

「そういう事なら席を外すわ」

「ありがとう〜」

ボタン

トントントントン・・・

「・・・よし」

「一応聞くけど、大丈夫なの？」

「大丈夫〜声出さないように気をつけるからあ」



あーっ



「教え子の部屋でなんて。。。いいのかな」

「ガチガチに勃起させておいてそれはないんじゃない？」

「まあ。。。うん。。。」

「じゃあやるやる♪」



「ちなみに鍵かけてないからね♡」

「!？」

「興奮するね〜」

あっ♡

ん♡

タパッ
タパッ

ズ
ズ
ッ

ズ
ズ
ッ

「あはっ・・・めっちゃ硬くなってる♪

そんなゴリゴリされたら中の形変わっちゃうよぉ♡

そろそろ出そう？

いいの？来ちゃうかもしれないんだよ？うふふ」

「んふっ♡遠慮なくいっぱい出してゐるね♡」

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

「教え子の家でこんな事してえ・・・いけないんだ♡」



「気持ち良かったね。またしたいなあ」
「すごく良かった。でも次はいつになるか」

「ところでさあ先生」
「うん？」

「明日はみんな出かけちゃうから
私ひとりでお留守番なんだよね」

ゴクリ

「楽しみだね♡」



その日は朝から教え子の家に行った
待ってました♪と言われた後は
お互いの服をはぎ取ってすぐにはじめた



「あはっまだ出てる♡」

「今までいっぱいしたから先生の身体の事ちよつとわかってきたかも」



あはっ...♡

あはっ...♡

何時間経ったかわからない

食事や風呂など少し休憩を挟んだけど
その目それ以外の時はずっとやり続けた





「ふへえ・先生体力ありすぎい・もっとしたい？まあいいですけどねえ」



「あとそんな強く抱きしめなくなったらって逃げないってば♡」

「ふへえ・先生体力ありすぎい・もっとしたい？まあいいですけどねえ」





「また学校でこんな事を・・・」
「でも良かったでしょー?」
「・・・うん」

「あっ、そういえば先生」

ド
ド

ド
ド

ド
ド



「今日は危険日だからこれ絶対デキてるよ♡」
「えっ!だ、だって、さっきは大丈夫だって。。。」
「先生の赤ちゃんなら大丈夫って意味だよぉ〜」
「ええ。。。」

＃

ニッコ



「いいよね？」

「まあ・・・うん・・・君がいいなら・・・」
「えへへ、先生ならそう言うと思ったよお」



「じゃあ確実にできるようにもう一回しよー！」

「人來ないかなあ・・・」

「誰か來ないかなあ♡」



おしまい

●REC



●REC



●REC



●REC



































































































